

学校点描

続

熱中症対策について、随分いろいろ
国や県から対策要請が降りてきまし
た。

《M中学校》

NO.3

R6. 5. 08

担当：校長

4月27日（土）の午後にPTA総会を開催しました。中には午前には小学校のPTA総会に参加なされた方もいらっしゃると思います。お疲れの中でも参加していただきありがとうございました。総会の中でS・Y新会長は、今年度設定した最上中PTAのテーマ『There's more than one way ～道は一つじゃない～』について、その思いを話されました。生きづらさを抱く生徒の存在、限られた道の上で歩いていくのではなく、人としての成長に向けて、もっと自由な生き方を模索させ、もっと失敗させていいと思う親としての構えについての内容です。学校と保護者と同じ目標をもって、子どもひとり一人を支えていけるような、希望があり、そして教師として身が引き締まるそんなお話でした。

風の人と土の人

朝、立哨指導と挨拶運動で外に立っていると、8時05分過ぎに、JR通学生と一緒に伊藤先生が歩いて出勤してきます。「どうしたの？」と聞くと、「今日は、生徒と一緒に電車で通勤してきました。」と、F形町N沢から通っている伊藤先生が答えてくれました。「電車の生徒もどんな様子か見てみたくて」と、今年新しく転勤してきた伊藤先生が電車通勤の本当の理由を話してくれました。

先月のある日、「今から終電で三陸に向かいます」と、石岡先生が言いました。新庄で顔合わせの会も終わろうとしていたときでした。「今から終電に乗って、三陸を目指します。明日から三陸をめぐって、明後日には戻ります」

石岡先生は、まさに旅の人です。生まれは宮城県、何かの運命か今はM町の教員として働いています。本校の職員は、M町出身の先生は少ないです。他の地区はもちろん、県外出身者も大勢で構成されています。校長としては、そんな初めてM町で務める先生たちに、M町を好きになってもらうことが大きな仕事だと感じています。



何日か経って、職員室で石岡先生に会いました。「三陸はどうだった？」と聞いたら、「最高でした。ユースホテルみたいな安い宿で若者と一緒に宿泊したし、三陸鉄道に乗って復興の応援ができました。」そんな話をしてくれます。

「旅をする人は、風の人。そこに住む人は、土の人」そんなことを言ってくれた、旅館の女将さんと最近出会いました。

体は大きくて、岩みたいな石岡先生ですが、先生は、風の人です。休みがあると、これまでも離島に行ったり、誰も行かないような場所を旅の目的地とします。頼もしい人だなあとと思います。時々授業では、旅の思い出なども生徒に披露してくれています。実体験が伴う話は、教科書だけの世界よりも、ずっと具体的で興味が沸く話になるはずです。

「風の人が、お客さんを連れてきた」そんなことをその宿の女将さんが言っていました。毎年定宿としているお得意の宿泊者が、たくさんの外国の人と一緒に来たからです。風の方は土の方から何かを得るために、土の方は風の方から新しい何かを得ながら、互いの人生の豊かさを深めるのでしょう。観光とはその土地にある“光”を“観”に行く行動なのですから。



生徒たちにとって、初めてM町に赴任した教師との出会いは、風のようにひと時の出来事かもしれません。交差点で交わるように、人生のある一瞬に出会う教師は皆“風の人”です。でも、この風の人との出会いによって、自分らしさを育て、故郷の良さを再確認できたとしたら、それが学校という魅力になるのでしょうか。私たち教師も赴任する地で成長していきます。教師の道も決して一つではありません。土の人である赴任先の地元の人・保護者・生徒との出会いは教師人生の大きなイベントとして一生涯残るものになります。

その日の帰り、国道47号線をヘルメット姿で懸命に自転車を漕いでいる人がいます。自動車でその自転車を追い越すと、バックミラーに、汗びっしょりの伊藤先生が映っていました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp